

ひょうごブルーカーボン連絡会議

須磨里海の会 活動報告

2023-2024

須磨里海の会 吉田裕之

2024年9月10日

本発表の里海活動ならびに調査研究には以下の助成を受けています

- ①兵庫県ひょうごの水辺魅力再発見！支援事業等(2017～2023)
- ②(公財)兵庫県環境創造協会ひょうご環境保全創造活動助成(2018～2023)
- ③大阪湾広域臨海環境整備センター:大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成(2010～12)
- ④神戸市「食都神戸」実践モデル活動支援(2017)
- ⑤神戸市立須磨海浜水族園の調査・研究・社会教育活動ならびに里海活動助成(2010～2019)

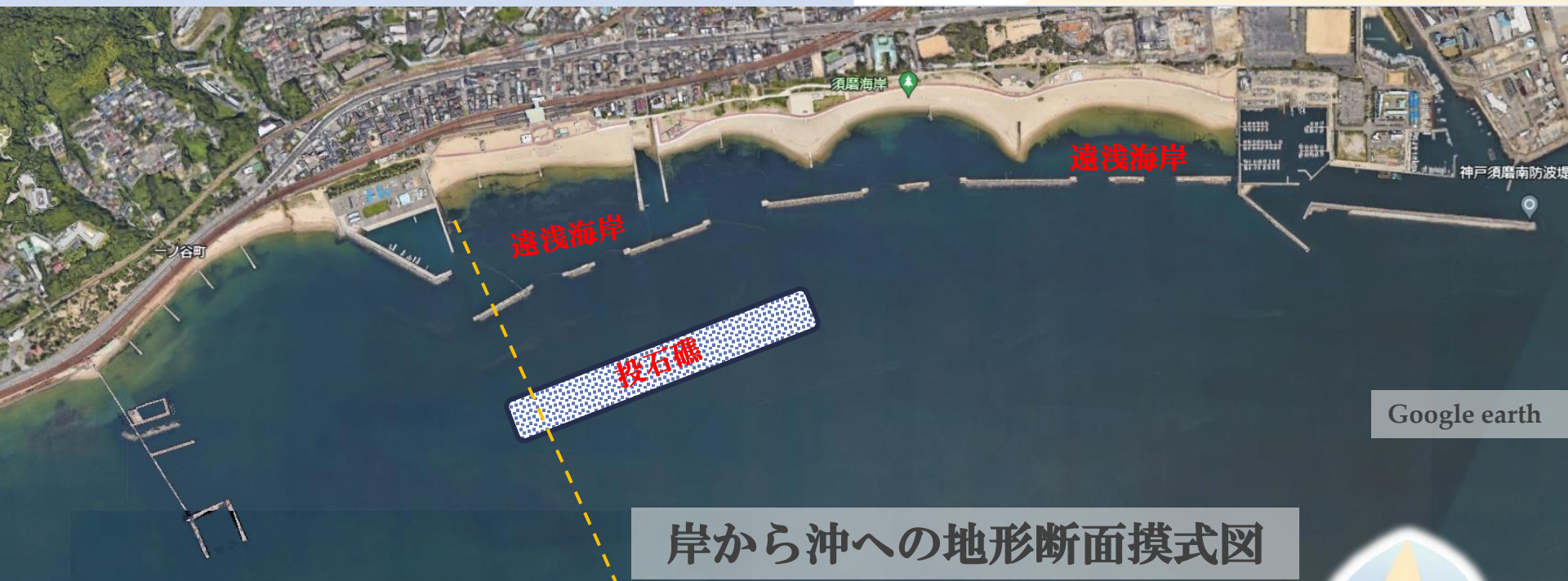
藻場のダイバーシティ

神戸の須磨海岸を

里海に

団体名: すまうら水産有限責任事業組合、須磨里海の会、兵庫県、神戸市

スマ
Suma 豊かな海プロジェクト



岸から沖への地形断面模式図



初回合計5.5 t -CO₂/年認証、5.0 t -CO₂/年分を販売

2024年度藻場づくり計画

(海岸全体の環境を理解し多様な藻場づくりへ)

- ①事業計画の計画作成と準備
- ②藻場、基盤及び維持管理手法に係る情報収集とGIS整備準備
- ③藻場分布調査(アマモ・アオサ類・カジメ・ワカメ・アカモク・多年生ホンダワラ類)
- ④母藻移植(アカモク)・播種(アマモ)
- ⑤移植地モニタリング調査(アマモ)：3年目
- ⑥藻場管理活動(アマモ場)：2年目
- ⑦ブルーカーボン啓発イベントの実施
- ⑧Jブルークレジット発行に向けた藻場評価：2年目



アマモの移植野外試験

1 年目：種子(播種)と栄養株を 3 地点全48m²の区画で10月に移植
2 年目：播種のみとし、 4 地点96m²(計144m²)を11月以降に追加
3 年目：播種のみとし、 4 地点全57.5m²(計201.5m²)を11月以降に追加し、試験を継続 ⇒ 2か月に一度モニタリング調査

1) 種子を用いる方法

- ①ヤシマット法
- ②アマモパック法 (ガーゼ法)
- ③同 (粘土法) ⇒ 2 年目のみ

2) 栄養株を用いる方法

- ①粘土結着法⇒ 1 年目のみ
- ②竹串法⇒ 1 年目のみ

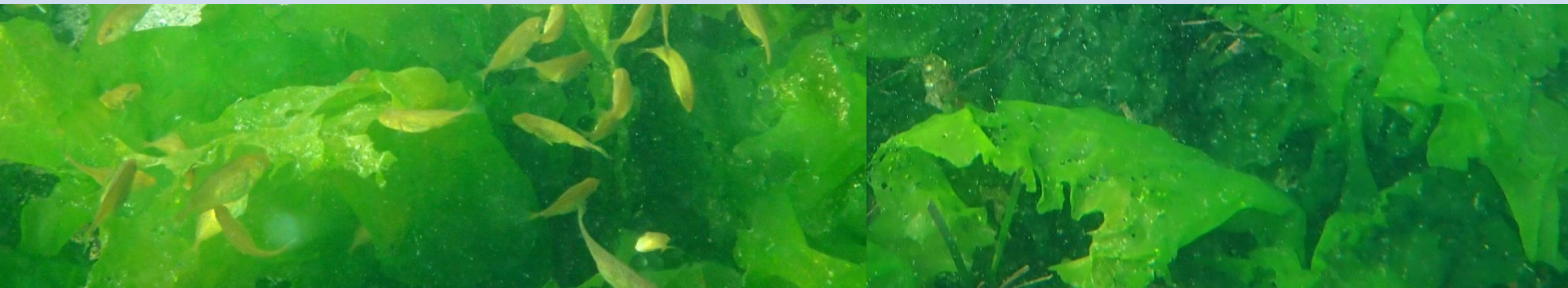


アマモの移植野外試験

2024年8月、移植試験区は例年に比べて大量に発生しているアオサに覆われた状況。

アオサの生育基質は、砂利のほか、ホトトギスガイがつくるマット状の群体であり、砂浜一面を覆っている。

アオサ群落は、植物食のアイゴなどの育成場となっており、今後アイゴによるその他の海藻への被害が懸念される。



カジメ生育実態調査

